



発行・カトリック水巻教会
 編集・広報委員会
 遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
 〒807-0025
 TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
 第363号

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

教会は自ら生きる信仰を伝える マヘル神父

福岡教区の今年の目標は「いつくしみから踏み出す第一歩」とすることが、宮原司教様から示されました。司教様は、今年は特に「青少年への信仰伝達と教会を離れている方々への配慮」に力を注ぐようにと願っています。

信仰の伝達は、複雑かつダイナミックな過程です。この過程はキリスト者の信仰と教会生活全体と関わります。自らが信じても生きてもないことを伝えることはできません。しっかりとした成熟した信仰を示すしるしは、それを他の人に自然に伝えられることです。福音をのべ伝えることを初めて可能にするのは、イエスと共に「いて」イエスと共に聖霊の内に御父を体験することです。よいこと、素晴らしいこととして生きたことをのべ伝え、分かち合いたいという促しを「感じる」ことです(マルコ3-13・14)。信仰の伝達は、グループや特別に任命された人に命じられた特別な活動ではありません。それは全てのキリスト者、全教会の体験です。教会は宣教活動を通じて自らあるべき姿を再発見します。教会とは、聖霊によって一つに呼び集められた民です。聖霊は私達を数えきれない身分から呼び集め、キリストが私達の間におられることを体験させ、父である神を見出せます。特に生活が各人と社会全体に課す問題と期待に対して、信仰がどのように有効な答

えであるかを証しすること(全ての人が多少の意識を持って予感し求めている)は信徒の責任です。この事が可能となるのは、信徒が自分自身のうちに見出される福音と生活の間の遊離をどのように乗り越え、家庭や職場や社会といった日常の活動の中で、福音の影響と力によってもたらされる生活への総合的な取組をどのように始めるかによります。キリスト教共同体が信仰生活の基礎的要素とは、愛の業、証し、宣教、祭儀、傾聴すること、そして分かち合いです。福音宣教を次のような過程と考えなければなりません。教会は聖霊に促されて、全世界に福音を述べ伝え、広めます。教導職の教えは次のように要約されます。「福音宣教は福音を公に宣べ伝える。初めは人を回心へと招く告知によって。次いで信仰教育とキリスト教入信の秘跡を通じて。キリストへと回心したものだけでなく、キリストに従う道に立ち返った者を、信仰とキリスト教的生活へと導き入れ、彼らを共にキリスト教共同体に組み入れる。同様

平和の集い	2・3面
フランスの教会	4・5面
県北部豪雨被災地の写真	5・6面
ペルーより	6面
教会学校	7面
お知らせ・短歌・幼稚園より	8面

に、福音宣教は、継続的信仰教育（説教やその他のカテケシス）秘跡、愛の業を通じて、信者の交わりの賜物を深める。そして彼らを常に教会の宣教の業へと導く。教会は全てのキリストの弟子を、言葉と行いを通じて全世界に福音を告げ知らせるように遣わすからである。信仰の伝達はキリストとの個人的出会いです。この出会いは、聖霊の導きのもと

で、聖書と教会の生きた聖伝という手段によって行われます。こうして教会は聖霊によって絶えず生み出され続けられます。同様に新しい世代の人は、それぞれがキリストと個人的に出会う毎にキリストの体によって糧を与えられます。皆さん、福岡教区のテーマと目標にのって、水巻共同体の生きている信仰を伝え続けましょう。



北九州地区 平和の集い (2017年)

★北九州信徒使徒職協議会(会長：大庭英樹)は8月6日(日)「第17回北九州平和の集い」を開催しました。教皇フランシスコの世界平和の日メッセージ『だれもが平和の作り手になれるのです』をテーマにした今年は、「愛の反対は憎しみではなく無関心です(マザーテレサ)」を思い起こし、祈り、子どもの広場では、身近な北九州八幡の空襲の話聞き、戦争体験を通して平和を学びました。

午前は平和祈願ミサを北九州地区カトリック13教会で捧げ、午後は北九州平和の集いをカトリック小倉教会にて、子ども21人、司祭10名を含む200名の参加者で開催。

メイン講師の森山信三神父(福岡コレジオ院長)のお話しでは、憎しみをやさしく包みなさい、憎しみをコトコト茹でなさい、そうしてやさしさに変容させる。それをするのは私自身です。今年7月に亡くなられた中国人で唯一のノーベル平和賞受賞者、劉曉波(リュウギョウハ)の言葉を聞き、また非暴力平和主義を貫いた先人たちの言葉を紐解きながら「平和の実現のため」を考えました。

子どもの広場では、大塚了平神父(田川、直方教会)のお話しで、「戦争体験を通して平和を学ぶ」をテーマに身近な北九州の空襲を学び、平和を考えました。(1945年8月8日八幡空襲で2900人が死んだ。カトリック八幡教会(現天神町教会)ゴシック建築で築11年の立派な教会も燃えてしまった。翌9日長崎に原爆投下。第一目標であった小倉は前日の八幡空襲の煙のため長崎に変更された。)

各団体の取組の発表では、①テーマ「いのち」：森松長生牧師(抱樸館)が、困窮と孤立状態が重なった人たちはホームレスか犯罪か自死に向かうこと。30年間2900人を超えるホームレスの支援、子どもの貧困からの連鎖を断ち切るため「子ども家庭丸ごとプロジェクト」支援活動の始動が語られました。②「貧困」：村松泰隆神父(児童養護施設聖ヨゼフ寮)が、児童養護施設は全国に600箇所、約3万人が生活しています。最近では親からの虐待を受け、

心に傷を負った「親の愛情を受けられない貧困」愛着障害(抱っこ、負んぶ)の子が目立ちます。「子ども達が愛されるだけでなく、愛されていると分かるまで愛さなければならない」(ドンボスコ)ことが原点です。③憲法9条コント(キリスト者9条の会)では、日本は、戦後二度と戦争しないと誓い、今迄世界中の国々と平和な関係を築いてきたが、憲法を変え、戦争ができる国にしようとしています。無関心では駄目と訴えました。

台風の影響でテント出店は断念し、信徒会館へ移動、同場所で小倉女性の会による手作りカレーを“いつもありがとう”と感謝をこめ美味しくいただきました。

平和献金は各教会から持ち寄り、「貧しい子ども達の教育支援」として、東ティモール「聖イグナチオ学院基金」、西アフリカ「シエラレオネ」へ贈られました。

深堀勝人神父(社会福音部担当司祭)は、神の子として一人ひとりが神の家族としての輪を大切に、平和を築いていけたらと願っている。また牧山勝美神父(北九州地区長)は、2月から計画し、実行して下さった実行委員会の皆さん20数名に感謝。この平和の集いで、自分のものさしだけで人とか出来事をはかっているだけではないのだなあと改めて意識したと話されました。

(岩本ナセさんによる報告文です。)

★今年の平和の集いでは、ほとんどの講演にて感涙しました！抱撲館の森松牧師が、ホームレスはハウスレスを超えるものという話から始まり、特に心を打たれた話は、悲惨極める少女の支援。その母は、麻薬により刑務所へ。その間、少女はまさにホームレス。刑期を終えた母と本来なら惨めな出会いなのに、愛のあふれるエピソードが語られました。次の児童養護施設・聖ヨゼフ寮の講話では、子供の貧困を基本的原因とし、子供への虐待等が原因で施設に入り、直面している深刻な状況が語られ、一方、後半部は余裕がないはずの生活の中、温かい暮らしぶりがスライド映写で紹介。森山神父からは、ノーベル平和賞受賞者の劉暁波氏の非暴力的態度、人権剥奪する政権を憎んでも憎しみの連鎖を生むだけだという話に始まり、どうしたら平和を作りうるのか？イエス様の教えから、私達にも日常湧き上がる憎しみの心にどう対処すべきかなど具体的な話まで、なされました。詳細は次号でお伝えしたい。

(広報委員 三谷尚)



子どもたちの奉納行列



子どもたちの歌(平和を作ろうトントントン)

南フランスの教会で見たもの

岩本光弘

春に南フランスの友人から「遊びに来ないか」という誘いがありましたので、妻と広島
の神父との三人で行くことになりました。フランスへの旅は36年前にアルプス登山に行っ
て以来二回目でした。

旅の前半は南フランスの農村地帯に点在する教会巡りをしました。今回行った教会は有名
な所なので沢山の観光客(巡礼者)が来ていましたが、そこへ行く途中や、その後の旅で見た
小さな町ごとに歴史が古い教会がありました。ほとんどの教会にはパイプオルガンがありま
したが、教会に信徒がいるように見えませんでした。その上これらの教会と関連施設には世
界遺産の表示があって驚かされました。

今回私たちが滞在した中世に建てられたコルドという古い町は、2014年に「フランスの
一度は行ってみたい町」に選ばれ、全国から沢山の観光客や古いフランスの歴史を学ぶため
に学校の生徒たちが来ています。日本からの団体客も一度見ました。

この町は小さな丘の上に浮かぶように建てられていますので、「雲の上のコルド」と言われ
ていますが、ここの町を中心に大きな聖堂がありました。この聖堂の鐘は朝六時から夜10
時まで定時に鳴りますので、自然にこの鐘の音が時計代わりになりました。ところがこの教
会はいつも閉まっていた。扉には木曜日と金曜日の午後二時から六時まで、ボランティア
が来たときだけ開けますと書いてあったそうです。後日開いている時に聖堂に行きまし
たが、とても素晴らしい美しい聖堂でした。

ところがこの聖堂では一年に二回か三回、クリスマスと復活祭くらいしかミサは無いそ
うです。そうすると神父はどうしているのかと聞くと驚いた話になりました。

この地区のコルド小教区には15の教会があって、1人の神父が順番にミサに行っている
そうです。土曜日夕方に一回、日曜日に二回と別々の教会でミサがあり、信徒には日程表が
渡されているそうです。司祭館はコルドの町外れにありました。

最初の日曜日は50kmくらい離れたところにあるアルビという大きな町の教会に行っ
て世界遺産のカテドラル・アルビ大聖堂の主日のミサにあずかりました。素晴らしいパイプ
オルガンの演奏と、聖歌を担当する元プロ歌手と思われるソプラノとバリトンの声に魅了され
ましたが、大聖堂の大祝日のミサの参列者は100人程度でした。その後各地の教会を見ま
したが、どの教会もパイプオルガンがあり歴史を感じるのですが信徒の姿が見えないのです。

パリからサンチャゴ・デ・コンポステラへの巡礼路にある集落には教会と巡礼宿とホテル
しかありませんでした。教会の横には大きな修道院があったそうですが、今は何もありません。
それでもこの教会と巡礼宿は使われており、到着した巡礼者が泊まっていて、翌日の朝
には巡礼者が次々とスタートして行きました。

旅の途中で何度も見たのは廃止された修道院でした。巡礼路にあった修道院は壊されて形

がありませんでしたが、大きな修道院の建物が売りに出されているのもいくつか見ました。教会に信徒が見えないだけでなく、修道者も激減しているようでした。三位一体の大祝日のミサに行った南フランスの山奥にあるトラピスト修道院にはかつてシスターが100名以上いたそうですが、今は15名しかいませんでした。

ヨーロッパのカトリック教会は衰退していると聞いていましたが、これほどだとは思いませんでした。来ている人は年配者ばかりで若い人がいません。これは今の日本の教会と同じではないか、日本の教会も20年後にはこのようになるのかと思いました。

ルルドの聖霊降臨のミサには世界中から沢山の信徒が来ていました。来ているのはスペイン語圏の人たちが多くフランス語は聞こえてきませんでした。土産に日本語のガイドブックを買おうと探したのですが、様々な言語の本はあっても日本語はありませんでした。一緒に行った神父は「前に行った時はどこでも売っていたのに日本語の本が無いことと、日本人が全く来ていない」ことを不思議がっていました。特にアジアの人の姿はフィリピン人以外全く見ませんでした。どうしてでしょうね。

私はルルドに行ったのは二回目でしたが、36年前に比べてすっかり観光地化していると思いました。極端に言えば教会の金儲けの地になっていると見えました。「聖女ベルナデッタ」は洞窟にあまり行かなかったという話も聞きました。

聖女ベルナデッタに現れたマリア様が、教会も含めた街全体が商売になっているルルドには二度と行かないと思って帰りました。

九州北部豪雨 ボランティア実施場所を追跡して

先月号で、当教会のボランティア活動の報告をして頂きました。下記掲載はそのボランティア作業実施の現状をお伝えする意図で写真撮影を試みました。ボランティア作業場所周辺被災地の状況をお伝えし、できれば義捐金、ボランティア活動参加をお願いしたいと思います。(撮影、三谷)



山田交差点付近 浸水したピアノが見える。



山田交差点付近



流木の蓄積場所



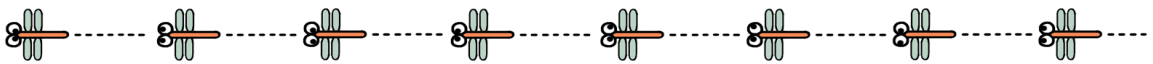
山田交差点付近



杷木志波付近



杷木志波付近



5月14日、水巻教会でペルー現地報告して頂いたSr. 島瀬からの手紙を掲載します。

暑中お見舞い申し上げます。先日は大変お世話になりました。無事にPeruに着き、時差を回復しているところです。今、こちらは寒いので体調の調節に苦労しています。

皆さまの暖かいお祈りと支援に励まされて、私達宣教女達は頑張ります。水巻教会の皆様
に宜しくお伝え下さい。 これからも宜しく願いいたします。

イエスのカリタス修道会・リマの聖女ローザ隼管区ペルー共同体 Sr. 島瀬チエ子

教会学校のページ

7月16日、教会学校毎年恒例の夏の集いファミリーキャンプが行われました。大人18人、中高生4名、小学生3名、乳幼児6名、合計31名と幅広い年齢層の皆さんに参加していただきました。

ここ数年の異常な高温気候や、雨天時の場合も考慮して、今回は屋内でのイベントを企画し、八幡東区桃園にある児童文化科学館へ行くことにしました。

ミサ終了後、簡単なランチを皆でいただきいざ出発！児童文化科学館での一番の目的はプラネタリウム観覧です。連日の猛暑から暫し逃れて、夏の涼しい夜空をピーターパンと共に旅しました。詳しい観覧内容を報告したい気持ちはやまやまですが、あまりにも心地よく大人の私は本当の夢の世界へ……そんな私とは真逆で、子ども達の目は宇宙と美しい星の世界の魅力に興味津々で生き生きと輝いていました。是非、ピーターパンの冒険話は子ども達にお尋ねください。

プラネタリウムの他にも、施設内には展示コーナーや、体験、ゲームコーナーもあり、遊び心を持ちながら科学の知識にも触れる時間となりました。そして何より毎回子ども達の笑顔に癒されるファミリーキャンプでした。

ご参加いただいた皆様のご協力本当にありがとうございました。



桃園の児童文化科学館にて





★敬老お祝い会★

日 時：9月10日(日) 11時～

場 所：水巻教会 信徒会館

今年も、敬老のお祝い会をします。お手伝いできる方は、ご協力ください。

また、ミサ中に希望者の方に、病者の秘跡を行います。

★特別献金★

8月6日(日)

北九州平和の集い献金 13,100円

ご協力、ありがとうございました。



水巻聖母幼稚園から9月のお知らせ

いつも水巻聖母幼稚園へのお祈り・ご協力ありがとうございます。

8月16日、17日は伊万里トラピスト修道院で職員の黙想会でした。

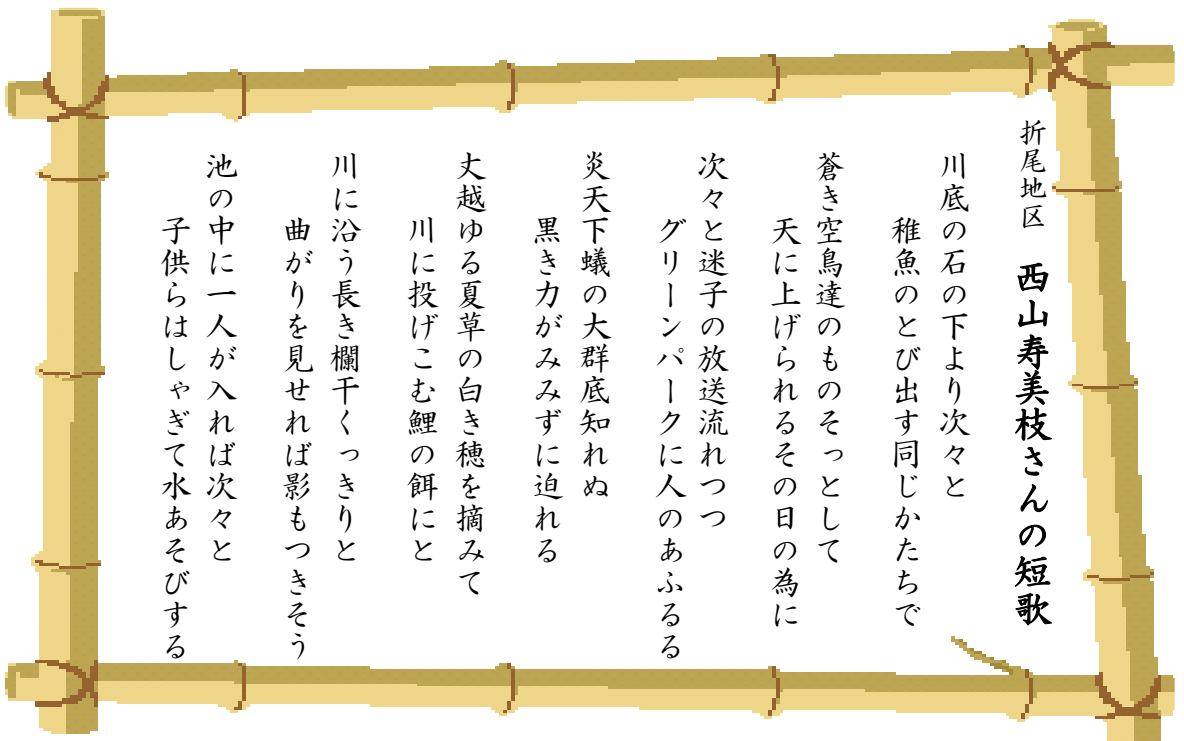
美しい自然の中、十時神父様のご指導のもと、皆で祈りの時を過ごすことができました。

☆「みんななかよく」(交通安全教室)

9月6日(水) 10時30分～11時

皆様 お問い合わせの上いらしてください。お待ちしております。

園長 Sr.松川明子 職員一同



折尾地区 西山寿美枝さんの短歌

川底の石の下より次々と

稚魚のとび出す同じかたちで

蒼き空鳥達のものそつとして

天に上げられるその日の為に

次々と迷子の放送流れつつ

グリーンパークに人のあふるる

炎天下蟻の大群底知れぬ

黒き力がみみずに迫れる

丈越ゆる夏草の白き穂を摘みて

川に投げこむ鯉の餌にと

川に浴う長き欄干くつきりと

曲がりを見せれば影もつきそう

池の中に一人が入れば次々と

子供らはしやぎて水あそびする